



自治体国際交流表彰 受賞後の影響と取組紹介 ～受賞団体フォローアップ調査の結果から～

(一財)自治体国際化協会 交流支援部交流親善課

自治体国際交流表彰とは

クレアでは、総務省と共催で、創意工夫に富んだ国際交流の取り組みを「総務大臣賞」として表彰しています。これはまだ知られていない交流活動の優良事例を掘り起こして、その活動を各自治体に共有してもらい、地域のさらなる国際化や自治体間の連携強化を目指すもので、本年度で第13回を迎えます。

2006年度の開始後10年以上経過したことから、昨年度、表彰後の状況についてフォローアップ調査を行いました。

調査結果の概要

まず、第1回～第5回の全16の受賞団体を対象に、「交流の現状」、「受賞による影響・変化」、「交流活動の継続による成果」という3つの観点でアンケート調査を行いました。

(1) 現在の交流の状況

全団体が現在も交流を続けており、約半数で首長が代わった中、交流頻度が減った団体はありませんでした。

(2) 受賞による影響・変化 (回答団体の割合)

主な影響には、ホームステイの受入家庭など交流事業への参加者増 [約5割]、メディア取材増 [約7割]、事業を担当する職員の意識向上 [約5割]、イベントの定着 (回数増・内容充実) [約5割] がありました。中には、国際交流員を新たに設置や増員するなど、予算または体制が充実したとの報告もありました。また、交流事業以外での相手国からの訪問者増 [約5割] や、民間団体などからの支援・協力増 [約5割] なども見受けられました。

(3) 交流活動の継続による成果 (回答団体の割合)

人材育成の点では、派遣者が再び渡航するなどその後の交流継続もみられました [約5割]。また、住民の交

流相手国への理解が浸透した [約4割] ほか、企業誘致や海外進出につながった団体もありました。

これらのアンケートの結果、特筆すべき活動の発展がみられた団体に対して追加調査を行いました。以下では、そのうち2団体の交流の進展や取組状況を紹介します。

三重県四日市市 (第1回受賞団体)

【交流相手先：天津市 (中国)】

四日市市では、現在も四日市市の環境分野の技術職員を天津市へ派遣し、天津市環境保護局の職員を2週間にわたって受け入れるなど、2006年度受賞時の評価ポイントでもある、天津市との環境技術交流を継続しています。一方で、物産輸出にもつながる経済分野へも交流の幅が広がっています。

2010年の天津市・四日市市友好都市提携30周年に、両市で経済交流推進を含む覚書を締結しました。翌年、四日市商工会議所と天津市工商業連合会が経済交流協定を締結し、同年、四日市商工会議所内に、四日市・天津経済交流センターを設立しました。

同センターでは、2013年に天津市への「四日市・天津販路開拓ツアー」を実施し、ビジネス商談会や四日市



2016 中国・天津国際輸入商品展示会にて
現地メディアから取材を受ける四日市市からの出展者@天津市



フェアを開催。翌年以降も継続して開催するとともに、現在は他自治体とも広域連携して相乗効果を高めています。また、現地バイヤーとも強固な協力関係を築いており、商品パッケージ裏に調理法を載せるなどデザインの工夫、価格設定など、中国で売れるための商品づくりを事業者へアドバイスしてもらう個別商談・相談会も重ねています。

フェアでは主に、四日市の陶磁器である萬古（ばんこ）焼をはじめ、日本酒や麺類などの各種加工食品を出品しており、集客、リピーター確保に努めています。さらに、フェアで一定の売上があった商品を、北京・天津市のスーパーで常設販売しています。人気の高い萬古焼は、天津市のお茶のバイヤーが、四日市での萬古焼まつりに買い付けにくるほどになっています。地場産品の振興とともに、海外輸出へチャレンジしたいという事業者も徐々に増えてきています。

一方、四日市市は、2016年8月にベトナム・ハイフォン市、ベトナム計画投資省外国投資庁とも、経済交流に関する覚書を締結し、今後、戦略的に経済分野での交流を進めていく予定です。

北海道鹿追町（第4回受賞団体）

【交流相手先：ストニブレイン町（カナダ）】

鹿追町では、2009年度の実績後も引き続き町をあげて活発な国際交流を行っており、その結果、より一層の町民への浸透、着実な人材育成につながっています。

町内の鹿追高校では、町からの補助を受けて、高校1年生全員をストニブレイン町に派遣し、約2週間短期留学させるプログラムを1996年度にスタートさせました。2017年度までに、1,400名以上が派遣されています。この事業により、町内の鹿追中学校・瓜幕中学校からそのまま進学を希望する生徒も多く、多い年は7～8割の生徒が鹿追高校に進学しました。長年の交流の結果、親子2世代に渡る渡航経験者もいます。

認定こども園しかおい、鹿追小学校含む町内5つの小学校、鹿追・瓜幕の各中学校、鹿追高校が、文部科学省研究開発学校（2002～17年度）の指定を受け、幼小中高13年間を見通した一貫教育を推進しています。具体的には、英語を中核にした多様なコミュニケーション能力の向上を目指す新設教科「地球コミュニケーション」と、ジオパークに認定されている鹿追町の環境や地

域の教育資源について学ぶ新設教科「新地球学（ふるさと学）」を取り入れ、人材育成に力を入れています。

中学生の頃ストニブレイン町へ派遣された女性が、その後鹿追町役場へ就職し、国際交流の担当課へ配置され、自身の経験を生かして国際交流事業に携わるなど、生徒それぞれが海外派遣の経験を活かした人材育成が実っています。

鹿追高校の1学年全生徒の短期留学や、小中高一貫教育の中で学ぶ町独自の教育プログラム「ふるさと学」などにより地元への愛着心が生まれ、大学進学などで転出した若者が、また町に戻りたいとUターンで戻ってくる学生が多いです。

2014年より、ストニブレイン町の方を鹿追町へ招へいし、生活体験してもらう長期滞在事業を開始しました。町が住宅2戸を準備し、1か月～3か月の間、希望者を受け入れています。滞在中は、認定こども園での英語遊びや町民向けの英会話教室を開催するなど、生活体験とともに、積極的に町民と触れ合う機会を作っています。これまでに7名が来町しました。

また、更なる国際交流の進展を求め、2016年からCIR（国際交流員）を任用し、地域住民との交流事業を通じて、国際交流意識の浸透を図っています。

2020年に町制100年、姉妹都市交流35周年の節目を迎え、さらなる交流の深化が期待されます。

来年こそはあなたの町で！

クリアでは毎年秋に当該表彰の募集を行っています。これらの受賞団体に負けず活発に取り組んでおられる団体の皆様のご応募をお待ちしています。



こども園で英語を教えるストニブレイン町からの招へい者@鹿追町